

## **本会記事**

### **■広報委員会だより** **第10回「おもしろ科学教室」(名古屋大学)** **での出展**

平成30年1月8日(月)名古屋大学において、小学生を対象とした「おもしろ科学教室」が開催されました。このイベントは、本学会を含む7つの学会、および大学、協会等、あわせて13団体が共催の形で毎年実施しており、今年で10回目を迎えました。各団体が、それぞれの分野を子どもたちにわかりやすく伝えられるように工夫を凝らした講演会、工作教室、ブース展示を行いました。当日は、小雨が降っておりましたが、約300人の親子連れが来場されました。子どもたちが、受信機を片手に電波のもとを探して歩く「FOXハンティング」を楽しむ姿や、教室で熱心に科学工作に励む姿が見られました。ブース展示においても、体験型のものが多く、モールス符号を電鍵で打つ体験(日本アマチュア無線連盟東海地方本部)、電子ブロックを用いた電子回路の組み立ての体験(愛知県電波適正利用推進員協議会)、自転車発電機を用いた発電競争(電気学会東海支部)、ライトレースロボット(情報処理学会東海支部)、ロボカップに出場したロボットの体験(豊田高専)、LEDの原理や製品の紹介(豊田合成)がなされていました。

本学会では、プラズマと核融合に関連した科学技術を紹介、体験するブースとして、ダイヤモンド片の熱伝導率の高さを体験する「人工ダイヤモンド氷カッター」、電子レンジ等を用いた「プラズマ放電実験」、超伝導体を使った「磁気浮上列車」の展示を行い、プラズマおよび核融合についてのクイズコーナーやパンフレットの配布も行いました。見に来てくれた子どもたちは、繰り返しダイヤモンド片を氷に当て、みるみる切れ込みが入っていく感触を楽しんでおりました。また、電子レンジでの放電実験では、ガス封入管が気体によって異なる色で発光する様子を熱心に観ていました。「磁気浮上列車」では、逆さまになっても落下せず、レールの上を素早く走る列車に感嘆の声を上げていました。超伝導の実験は、そう見る機会があるものではないので「これが見られてよかった」との声も聞きました。最近、子どもたちを対象とした「プログラミング教育」、「ロボット教育」、「STEM(Science, Technology, Engineering and Mathematics)教育」といったことをよく耳にするようになりました。このような催しは、これからますます注目が集まっていくかと思えます。



プラズマボール、蛍光管を近づけると光るよ!



電子レンジでの放電、ネオンサインの色だね。

本イベントには、広報委員会から吉沼幹朗、大野哲靖、柴田欣秀、下妻隆、田中宏彦、中村圭司、久保博孝と事務局から杉山恵子が参加しました。このように、広報委員会では、広く社会に向けた情報発信をめざし活動を行っています。広報活動に関するご意見等がございましたら、ぜひ委員会までお寄せください。

今回の出展にあたり、愛知工業大学高井吉明先生はじめ実行スタッフの方々には大変お世話になりました。また、展示物については、核融合科学研究所及び量子科学技術研究開発機構よりご提供いただきました。ご協力に感謝申し上げます。

(広報委員会)